

小中一貫教育目標

ふるさとを愛し、世界に学び、未来を切りひらく児童生徒の育成
 — かしこく（学力向上）・やさしく（思いやり）・たくましく（自立） —

確かな学力の育成

- 授業研修会（分かる授業の推進）
- 乗り入れ授業（高度な授業）
- 教科担任制（高学年）
- 出前ものづくり（理数教育の推進）
- 家庭学習の推進
（家庭学習の手引き・マイスタ・自主学习）

豊かな心の育成

- 規範意識の向上（生活・校則・ルールの遵守）
- 一日体験入学（授業体験・部活動体験・生活体験）
- 道徳授業の新たな展開（教科化）
- 道徳的実践力の強化
- 小中合同人権フィナーレ
- 心の通い合う生徒指導

たくましい身体の育成

- 食育の推進
（ひまわりカード・ハートフル弁当・交流ランチ）
- 小・中学校交流マラソン大会
- 体育授業展開の工夫
- 計画的な安全教育
- 日常的な体力づくり

☆学力・指導力向上☆

- 9年間を見通した授業
- 小中教職員による合同研究推進
- 一貫した系統的な学習指導
- おの検定の活用（基礎学力の定着）
- 理数・英語教育の推進

令和6年度重点項目
 『児童生徒理解』
 『キャリア教育』
 の推進

☆一貫した生徒指導体制の構築☆

- 小中の滑らかな接続（個性尊重引き継ぎ）
- 心の通い合う生徒指導の充実
- 自尊感情の育成
- キャリア・道徳教育の推進
- 児童・生徒理解の共通認識

	第Ⅰ期（4年） 1年生～4年生	第Ⅱ期（3年） 5年生～7年生	第Ⅲ期（2年） 8年生～9年生
学び	反復・定着による「できた」「わかった」などの達成感や「知りたい気持ち」「わくわく感」重視。	具体的な思考から抽象的な思考へ。 「知りたい気持ち」から主体的な問題学習へ。	目標意識（将来へ夢や目標を強く意識）や知的好奇心（学ぶこと自体を楽しむ）を重視。
キャリア発達	自分の思い、考えを伝えることができる。 自分や友だちのよさをとらえ、協力できる。 係や当番活動でみんなのために取り組む。 日常生活や学習と将来の生き方とつなぐ。 自分で課題解決しようとする事ができる。	話し合い等で、多様な考えを理解できる。 異年齢集団で役割と責任を果たす。 学びや体験を生活や職業と関連づける。 将来を考える大切さがある。 将来の夢や希望の実現へ努力しようとする。	自他のよさ・感情を理解し、尊重する。 チームを組んで支え合いながら仕事をする。 進路・職業の情報を多面的に集め検討する。 自己を生かす将来を現実的に考える。 将来設計実現へ課題解決に取り組む。

小中一貫教育推進委員会

プロジェクトチーム機能を生かした教育活動の展開

小中一貫教育運営委員会
 （教職員・保護者・地域）

教科部会

専門部会

- 各教科部会
- ◎ 理数科の系統・重点的な項目の研究
 - プログラミング教育
 - 英語教育の連携推進

- 学習部会
- ◎ 小中合同研究推進
 - 「家庭学習の手引き」の実践
 - 授業公開週間（小中交流参観）

- 生活部会
- ◎ 児童生徒理解にかかる共通認識
 - 望ましい生活習慣・態度の育成
 - 児童会生徒会の交流

- 広報部会
- 地域啓発リーフレットの作成
 - 地域との連携による広報活動

- キャリア部会
- ◎ 「夢をかなえる科」の充実
 - 多様な体験活動の実施
 - 各教科・領域でのキャリア形成の研究

- 道徳部会
- ◎ 特別の教科「道徳」授業の研究
 - 体験活動・学校行事の推進
 - 発達段階をふまえた人権課題の研究